

1. 実況上の着目点

- ① 日本海の 500hPa 5700～5760m付近にはリッジがあって東進。対応する高気圧が西日本付近にあって東へ移動。西日本から東日本では、この高気圧に覆われて晴れている所が多い。またアムール川下流の 500hPa 5520m～5580m付近のリッジに対応する高気圧がオホーツク海にあって南へ移動。
- ② 500hPa 5880m 付近の強風軸に対応して、沖縄の南～日本の南～日本の東には前線が停滞している。また、先島諸島付近にはシアーラインがあって、海上を中心に非常に激しい雨を解析している。
- ③ ボツ海～黄海付近の 500hPa 5700～5760mには -15°C 以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の西日本の高気圧はゆっくり東へ移動し次第に不明瞭となるものの、別の高気圧が14日にかけて関東の東を東へ移動。これらの高気圧に覆われるため、西日本から東日本では14日にかけて、晴れて気温の上がる所が多い。
- ② 1項③の寒気を伴ったトラフは14日にかけて本州付近を通過。東日本～東北地方では寒気を伴ったトラフの影響に加え、2項①の関東の東の高気圧後面の湿った空気や、日中の気温の上昇に伴い大気の状態が不安定となり、山沿いを中心に対流雲の発達する所がある。落雷、突風、降ひょうに注意。
- ③ 15日には優勢なリッジが日本付近を通過し、対応する地上の高気圧が日本の東で勢力を強める。この高気圧とオホーツク海の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北日本を中心に強い風が吹いて、波がやや高くなる所がある。強風に注意。
- ④ 1項②のシアーライン付近では大気の状態が不安定となっており、南西諸島では13日は落雷、突風に注意。また1項②の前線は14日にかけて、日本の南～日本の東に停滞するが、その後次第に不明瞭となる。一方、15日夜には、華中付近の 500hPa 5820mの正渦度移流に対応して、前線が顕在化する見込み。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。